

# OB会報

## 第6号 湘南高校サッカー一部OB会

### 偶感

駒崎虎夫(六回)

年々湘南サッカーOB会が発展、充実して来て居ることは同慶の至りです。

世話役をつとめられる方々に心からお礼申し上げます。七十才を過ぎますと老人の部類に入れられるのでしようが、OB達が集ると、年令を忘れ、思ひ出を語り合えば若い気になって、サッカーの心とか技にまで及ぶのは、未だにサッカー人種の一員でありたい存念からでしょう。

私より古いOBが少なくなつて淋しい気がしますが、天野さんご兄弟三人(健二さんの他)がお元気で居られることは嬉しいことです。総会でお眼にかかれることを楽しみにして居ります。

最近は大リーグでの観戦が減り、テレビ観戦が多く、十曜夜六時のテレビ東京など楽しんで居ります。外国勢同士のゲームが多いのは致し方ないですが、たまに放映される日本のそれと比較すると、まだ向うの方が上のような気がします。

トラッピング一つをとって見ても、彼等は次の動作のためのそれを苦もなくこなして居り、止めるのがやうと言った我々の若い頃は論外として、やや進歩した

と思われる現在の日本サッカーの技術を比べても残念乍ら数段劣るように思う。

それに加えチームプレー、特に、ボールを持つ者の意志を凶った上での周りのプレーの動き、次の展開を想定しての動きはこれこそと思わせるものがある。長い歴史を持つ彼等の頭と体が、その場その場で自然に反応するのも知れないがそれも平常の練習の成果ではないでしょうか。周りの者が動くこと、は技術以前の問題です。

さて、六十二年は私(慶応サッカーのOBでもある)にとつて嬉しい年でした。慶応サッカー部が十二年振り早慶定期戦に勝ち、九年振り関東大学リーグ一部復帰を果たしました。私の在籍した頃(昭和六年一十一年)の慶応は常に優勝若しくは優勝を争うチームでした。それが三部とはと此の所数年口惜しい思いを続けたのでしたか。

湘南サッカー部の諸君、老年短い私に、遠い昔の昭和五年、進学をやめて全員五年生に残った八人が下級生三人を加えたチームで、初めて県下の大会に優勝し

湘南サッカーの幕開けとした時の感激を思い起させて貰えませんか。私達、中学五年制時代と比べ短時間での成果を強いられる諸君は気の毒にも思うけれど、同じ条件下の他校との戦いなのだから、是非、勝ちつづけて、近い将来、OB達を喜ばせるよう頑張つて下さい。

### サッカーの思ひ出

白根雄偉(11回)

OB会副会長の安保さん達と御相談の上、近所在住でこの会報編集を担当された井上孝さんの御指名で筆を手にした。

大磯小学校時代は、ドッチボールが好きだった私が、昭和六年湘中に入學するや、すっかりサッカーに魅せられてしまった。運動の時間は殆んどサッカーだった。私も暇を見つけてはグラウンドに降りて、あのコンクリートのスタンド併用の土留壁を相手にボールを蹴っては楽しんでいたのでした。

五年生の時、サッカー部員が少なかつたためと思うが、蕪崎中学などの対外試合にエキストラで引張り出されている中に、いつしか私は、正規のサッカー部員にされてしまった。

いつの時代にも「いたずら者」はいる。私の湘南卒業のとき、「湘中サッカー部の鳳雛白根静高に飛ぶ。」と某新聞社に投書した者がいて、それが報道されたため、静岡では否応なしにサッカー部に入れられ、部生活を楽しみつつ、サッカーに明け暮れの三年間を送ることになった。

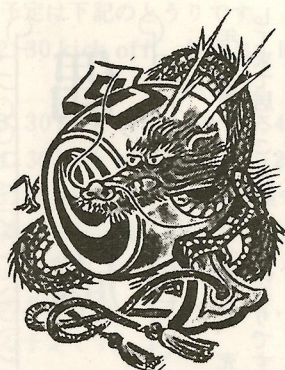
如何に若い時代でも、毎日毎日暗くなるまで広いグラウンドを走り廻っていたのでは、勉強の方は全てのお留守!! しかも、サッカーは「ウインター・スポーツ」だからといって、他の運動部のシーズン・オフは八月からなのに、サッカー部のシーズン・オフは学年末試験期直前の二月からなのには参った。しかし、それでも三年で卒業はできたものの大学には入れず、高校浪人として退屈な日々が私を待ち受けていた。というのは、私の志望校の受験科目は、今では想像もつかないことだが、簡単な欧文和訳一題と一寸した論文を書くだけだったからである。

どうやら、三回目で志望校に入れたが、入学と同時に一寸した手続ミスで早目に徴兵検査を受けることとなり、現役の陸軍二等兵として入隊し、二十一年三月無事台湾から復員することができて再び大学に戻ったが、静岡当時の学友は、すで

に卒業するか、または不幸にして戦死してしまっており、淋しく翌二十二年卒業の上社会人の一人となった。

そのような当時は回顧するにつけ、私は何となくサッカーへの感懐の念が湧いてくる。もしも私とサッカーとの出会がなかったら、恐らく浪人はせず、その結果、順調な進路をとった多くの学友と同様戦争の犠牲者となっていたかも知れないと思うからである。

やがて私は「古稀七〇才」を迎えるが、六〇才位まで「スタミナのしーさん」ともいわれもした私の体力は、少年時代のサッカーによって培われたといっても道言ではなく、このことも合わせてサッカーに感謝するとともに、湘南サッカー部及び部員の御発展を祈念してやまない。



旧制 中学 OB

サッカー大会で

優勝 !!

(世話人) 桑 田 孝 (22回)

今年も11月23日に第5回大会が行われたが、湘南が念願の優勝を果し、参加者全員久し振りに勝利の美酒に酔った。

当日の参加者及び戦績は左記の通りで(参加者)

- 中村 (3) 村松 (5) 常盤 (6) 小熊
- ・吉武 (13) 安保・内田 (15) 戸沢・三浦 (16) 海老原・高橋 (18) 八星・磯崎・松本・広瀬 (20) 松浦・矢住・桑田 (22) 小林 (23) 小田島 (24) 川島
- ・香川・斉藤 (25) 酒井 (26) 加藤・栗原・田川・山本 (27) 鈴木先生

(戦績) 予選B組一位

湘南2 (0-10) 0 府立八中  
湘南2 (1-1) 1 付属中・湘南2 (0-10) 神戸  
決勝

29人もの大勢の方が集ってくれたのが、

優勝出来た最大の原因であり、世話人として大いに感謝している。特に遠路駆けつけてくれた矢住(天童)、加藤(名古屋)、栗原(松山)の諸兄、特別参加して下さった鈴木先生には厚く御礼を申し上げる。

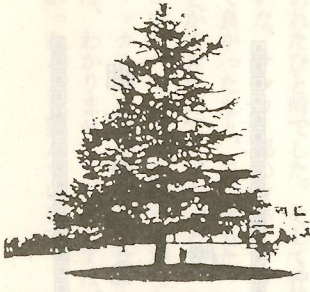
そもそもこの大会が行われるようになったのは、今から十三・四年前、巢鴨の三菱グラウンドで湘南中OBと神戸一中OBが対戦した時に遡る。神戸一中は戦前の旧制中学のサッカー界では名門中の名門で、全国優勝するのは当り前と無敗を誇っていた。

湘南も毎年夏の甲子園大会に駒を進めてはいたが、神戸一中と対戦する前に敗けていたので、湘南が神戸一中と対戦したのは、戦後昭21の西宮球場で行われた第1回国体での決勝戦が初めてだった。この試合は湘南が3-2で勝ち初の全国制覇を遂げるのだが、次の年で旧制中学

大会がなくなつたこともあり神戸一中にとっては永遠の屈辱ノ当時のメンバーは今でも先輩に頭が上らないと言っている。

それで東嶋の試合には、仇を果さんものと元の名物部長川本先生(神戸ユニハイム社長)をはじめ三十人以上も大挙集り、とうとう仇を取られて仕舞ったが、それを聞きつけた高師付属中、府立五中府立八中のOBが俺達も仲間に入れてくれ、湘南となら俺達も縁があると広島勢(一中付属中)も参加し、とうとう6校ものOBが集って毎年行われる盛大な大会になって仕舞ったのである。

サッカーは仲間が集らないと出来ないスポーツだし、試合をするには相手がいる。何時までも良い仲間、良い相手に恵まれるのは人生の最高の幸せであろう。小林君が、「久し振りに勝ちたいと思つてやつて、勝つて感激した!!」と言っていたが、それは参加した全員思いであつたことだろう。来年ももっと大勢の人に集つて貰い、又あの感激を味わいたいものである。



※※※※※※※※※※

### 湘南ペガサス62年度の活動

※※※※※※※※※※

牛尾慶邦 (32回)

#### 1. 神奈川県都市四十雀リーグ戦

第3回を迎えて我が湘南は1部Aクラスチームとして自他共に定着してきた。高齢者サッカーの紳士的、プラス友好的の本分を忘れた考え、行為を發揮したチームが課題となる中であつて、終止ニコヤカに全試合全員出場を楽しみながら1部3位を得た湘南の実力と模範的態度は称賛的となり、後述の、楽しむサッカーイベント実現にあつて中心的役割を果たした。

#### 2. 定期戦

四十雀リーグが現われる迄はその都度グラウンドと相手探しに苦労してきたが、その中から小田高、栄光OBとの試合及びかつて錦を削つた高校OBらによるONE DAYトーナメントが現高校の協

力の元にはほぼ定期戦として実現されるようになり、桜や豚汁付の集いを毎年予定を立てて楽しめることとなった。

#### 3. 神奈川県会議長杯トーナメント

##### 第1回大会

四十雀各チームが友好を計りながら平等の試合数、内容を楽しむ2部制リーグに加えて、実力を確かめるトーナメントが冬期に開かれることになりやや引締つた気持ちで新年を迎えている。メンバーの集まり方次第で優勝が可能だし又、1回戦で負けることもあり得る組合せとなつた。清水高校で1月31日、2月14日、28日、3月13日決勝となる。

#### 4. 楽しむサッカー大会の実現

40才前半の馬力も50才前後になると必

ず衰えてきて力の差がはっきり出るこゝがわかつてきた。四十雀大会の本来の目的に沿つて永続させる為には、悲哀感を覚えるようになってきた人達同志の試合も組む必要があるという発案がたちまち賛同を呼び、トーナメント決勝の日にイベント開始が実現することとなった。これで約3分の1の人達が寂しさから直立り、若々しい笑いの中に大会が一層盛んになってゆくはずである。

#### 5. 若い人の参加を期待

リーグ戦は毎試合20人弱が集まるようになった。これでは何かと平端で、あと6人程集めて2チーム作りたいのが目下の切な願いである。若い人が不足なので今年40才になる人も含めて積極的に申し出てもらいたい。3月中に老若2チーム実現を目指して。

・ペガサス事務局

〒248鎌倉市稲村ヶ崎二一三十三

大内 健嗣

0468-2215782

〒255中郡大磯町東町一七十四

井上 孝

0463-1614234

湘南サッカーは

僕の財産

渡辺象次 (41回)

僕は週三日、小三ノ小六の子達にサッカーを教えている。より正確に言えばサッカーを通じて子供達と遊んでいるといった方が正しいだろう。とまれ、ボールを追い回す子供達の姿は理屈抜きで楽しい。だが試合という勝負事になるとどうも言ってもらえない面もある。特に六年生ともなると……。

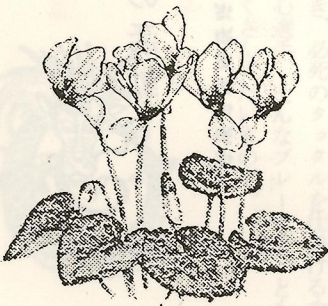
ここに異なる四チームを登場させるのも一考だろう。海ぞいにあるクラブ組織の二チーム、仮にAチーム、Bチームとしておく。Aは六年のベストメンバー、Bはいわば二軍的存在である。一方、山側のあるクラブの同学年、同区分けのチームをC・Dチームとする。A・Bの子供達は明かるく、気だてがよいが、少々おぼっちゃん、山側のチームはどこかしたたかなところがあり、子供らしさの中に大人の顔がちらほらのぞける。技量はA・C甲乙つけがたい。B・DはBの方

が格上である。AとCは同じ茅ヶ崎リーグで常につばぜり合いを演じてきた間柄でもある。結局Cが優勝し、取りこぼしのあったAは三位であった。

ところで少年サッカーには時として二軍選手のための大会がある。B・D共に参加した。Aのほぼ全員が応援に駆けつけた一方、Dに対するCからの応援者は一人もいなかった。僕はやはりと思った。Bのために来てくれるAの子達を僕はいい子達だと思う。がその優しさは今のところ、Cのその冷たさに勝てないでいる。それでも子供であるが故に前者であって欲しいと思うのだが、うまくなるにつれ強くなるに従い、子供達自身が勝ちにこだわってくる。たかがガキのサッカーとはいえず、やはり指導者でもある者たちはここのかねあいが一番難しい。子供らしい優しさを持ったまま、ここ一番という試合のプレッシャーをはねのける強さを

一体どうやって引き出したらよいのか。徹底的に勝つためのサッカーをしてしまおうかとふっとそんな誘惑にかられる。だがそれは自分自身の、ひいては大人の一人よがりだし……。

ともかく、僕にとりこの子達へのサッカー指導の基は全て湘南サッカー、そして鈴木先生、岩淵先生のサッカーである。と同時に、素人の方が情熱を傾けて指導に当たる姿には頭が下がる。研究熱心な方が多く、時には足下をすくわれるような指摘をされることもある。自分がサッカーを楽しんでいた時より、人にサッカーを教えるようになって初めて試合の仕事が分かってきたように思えてならない。今にして、現役の頃の自身のプレーを半分は評価しつつも、何と未熟であったことかと思わずにはいられないし、又それが後悔であり、反省に意味のない歳になってしまったことが淋しく想われる。それでもサッカーは面白く、無限に深い。



初代女子

マネージャーとして

小泉 治子 (44回)

私がサッカー部のマネージャーになったのは、もう二〇年程前のことになりました。ふた昔も前のことを何か書くようにいわれましても、記憶がかなり稀薄になり、実際、当時自分自身がどうしてマネージャーになりたかったのかすら定かではありません。そこで思いつくままに、記憶を辿ってみることにします。

私が高校に入った一つの目的は、サッカー部のマネージャーになることでした。その頃、湘南高校のサッカー部は県下では強いほうでした。またサッカーが盛んになりつつある時期でもありました。まだ女子サッカーは行われておらず、サッカーにかかわろうとするには、マネージャーになるのが一番早道のように思われました。湘南高校にはまだ女子マネージャーはいませんでした。他校にはすでに誕生しており、特別初めてで戸惑うというところはありませんでした。逆に前からいた男子マネージャーの方や、選手達のほうが気を使って下さったのではないのでしょうか。もっとも私の仕事といったら、選手の練習をみながら、その内容をノートにつけたり、時間を計る必要があ

る時にはストップウォッチを握ったり、また中さん(鈴木先生)の秘書もどきをやったりと、どこかマネージャーなのかしらと思うような毎日でした。合宿の時には、私は一緒に泊まれないので、毎日朝食に間に合うようにと、せせと朝はやく通いました。このように本人は、けっこう一生懸命やっただけで、選手に選ばれたことすら疑問です。実際それまでの先輩が残した好成績がマネージャーをしていった時期には挙げられませんでした。今考えると団体競技において、コーチでもなくチームに溶けこむのは、難しいことだと思えます。それも男子選手だけのなかで女子が選手としてではなく参加するのですから。もっとも私の場合は、中さんと部員がみな親切でしたし、兄がサッカー部の先輩だったこともあって、楽しいサッカー部生活を送れました。それを確認したのは、昨年の暮れのことです。なんと一八年ぶりに、サッカー部の同期生が集まったのです。全員というわけにはいきませんが、だが、高校時代にもどったような錯覚にとらわれたひと時でした。そして仲間っていいな、サッカー部のマネージャーをやって良かったなと、二〇年もたって思うことができたのです。もっとも、これは私が女子マネージャーだったからなのか、サッカー部の一部員であったからなのかは、わかりません。私としては、後者であったことを望んでいます。

蹴つて書く

細川周平 (48回)

ぼくが湘南に入学した一九七〇年は、初めてワールドカップがメキシコからテレビ中継された年でもある。それが生で放映されるようになったのは、次の大会の決勝から、そして決勝以外の試合も深夜、生で流すようになったのはそれにそのあとのアルゼンチン大会からだ。4年ごとにサッカー好きに訪れるあの興奮と寝不足の10日間は、この時から始まった。66年のイングランド大会には「ゴール」という白黒のドキュメント映画があり、ぼくと同じ年頃の全国のサッカー少年の共通体験になっているが(一体あのフィルムはどこにあるのだろう)テレビでベレやらベッケンバウアーを見た感激は一生ものだ。また今も細々と続いている「三菱ダイヤモンド・サッカー」がイングランド・リーグを日曜の朝に中継し始めたのもぼくらが中学生のことだったし、「イレブン」が「サッカー・マガジン」に続いて創刊されたのも、同じころだったと記憶する。メキシコでの68

年の銅メダルがサッカー少年を熱くしたことも忘れられない。86年、ぼくにとってはサッカーの聖地といえるメキシコワールドカップを見に行った。例のマラドーナの7人抜きも幸い、ぼくのいた側の出来事だったし、大会中最もエキサイティングなゲームといわれるブラジルフランス戦も、ブラジル応援団で「日系3世」という顔をして見たし、韓国イタリア戦は当然韓国人のつもりでラットルを鳴らしていた。決勝戦も含めて10数試合をその場でダフ屋から切符を買って見物し、至福の一箇月をすごすことができた。今はもう90年のイタリア大会にどうやっていくかを考えている始末だ。

ぼくの専門は音楽学、つまり音楽の理論やら歴史を勉強することで、今年(88年)から芸大の楽理科の助手に勤務することになっている。これはぼくにとって初めての定職で、これまでは音楽評論を新聞や雑誌に書いて生活してきた。ところが

ろがぎっちゃん、数年前に感動をこめてヨハン・クライフのことを書いて以来、サッカーのことも書くようになり、メキシコ観戦記のほか、デイノ・ゾフ論、オフサイド論、アメフトとの比較論などを細川蹴平の筆名で「東京新聞」「現代思想」「GS」(これはぼくが編集委員にはいっている)などに発表している。なんについても「論」が成り立つこの不思議。ドイツには「ボールは丸いというテーゼには哲学的な深さがある」という本があるくらいだから、それほど珍奇なことではない(がやはり珍奇だと自分でも思う)。テーマをかえて繰り返すことは、サッカーが誰もか予測できない瞬間的なカタストロフ(IIゴール)を目指す偶然性と流れのゲームである、ということのある人ならみんなが知っていること。ただかそんなことに何百枚も費やして何になるのかわからないが、近々、これまでに書いたものをまとめて、「読む前に蹴れ」とか「ゴールの哲学」とかいうタイトルで哲学書房から出版する予定。ブックデザインは石神井高校のエース・ストライカーにして、ジョージ・ベストの崇拜者である画家の大竹伸朗に頼んでいる。その中で使うために最近「サッカー引用集」という名言集・珍言集を買ってばらばらとめくっている。またメキシコで買ったワールドカップ用の応援レコードをメキシコに長く存在し、ぼくと旅をともした友人と分析す

る計画も少しずつ進んでいる。

グラウンドに立つたびに(今、編集者やカメラマンや西友の店長なんかが集まった草サッカーのチームに在籍している)衰えた自分に失望する。見えない、走れない、蹴れない。サッカーの夢は今でもよく見る。ボールがそこを走り、自分はそこに追いついていなくてはならないのだが、足が届かない、というなげない内容で、目がさめるたびに、全く悲しくなってしまう。中学・高校時代に満足のゆくボジションとキックの技術を会得しなかったことが潜在意識に残っているのかも知れない。こういう夢で運動不足が解消できるようになれば、とばかかなことを考えているようでは、やはり衰えるばかりなのだろう。もはやサッカーと呼べる下根にまで落ちてしまったかもしれない。その反動なのか、サッカーについて書くことは、こうして湘南時代のことを思いだしながら、近況を報告することも含めてとても楽しい作業だ。現役時代はちっともうまくなかったし、運動一般に全く鈍いぼくが、こうしてサッカー評論にまがりなりにも携わるようになったのも、湘南の明るい雰囲気、へただけど好き、という気持ちを育んでくれたからだと思う。ぼくは来るべき本をこの会報の読者の参集点であるあの固いグラウンドとスプリングカラーに捧げなくてはならない。

湘南湘南湘南湘南湘南

日本がまた

負けてしまった。

\*\*\*\*\*

湯 浅 健 二 (46回)

日本サッカーが発展するためにオリンピック出場が欠かせないということ、そして個人的にも良く知っている選手たちが出場していることもあって応援している手にもつい力が入ったのだが、結果は日本の完敗だった。それにしても中国や韓国など、東アジアを代表するチームには、フランスのとれた選手が多い。それは攻守両面にわたって、フランスのとれた仕事ができるという意味なのだが、やはりそういう選手が中心でなければ強いチームはできないということなのだろう。もちろんコーチとしてはそんなフランスのとれた選手をできるだけ多く望んでいるのだけれど、日本ではどうしてもその数が限られる。

西ドイツ・プロコーチ養成コースの仲

間だった若いコーチがもうすでに3人ブンデスリーガの監督に就任している。最近彼等と話す機会がありその事に触れてみた。負ければすぐにその去就が取り沙汰されるハードな環境で仕事をしている彼等、出る言葉には重みがある。「もちろんオレたちのチームにマラドーナやブラテニがいいたら、彼等には守備は要求しないで守備要員を一人増やすさ。でもそんな才能はそこいらにころがっているものじゃない。だから攻撃の中心になる者にどんどん守備の仕事要求していくし、彼等だってそれがなければいつかは他の者にボジションを取られる事を良く知っているから文句など言わないよ。彼等はプロだし、その仕事が出来なければ絶対に評価されないことを良く理解しているもの……。」

西ドイツに限らずサッカー先進国にはそんな一定の価値観があり、それがサッカー選手の指標ともなる。自チームがボールを奪われるや直ぐ守備に就き、必死のタックルを任掛ける攻撃の中心選手、そんなプレーをもっともっとたくさん見たいものだ。

湘南クラブより

\*\*\*\*\*

神 崎 章 (59回)

湘南クラブは湘南サッカー部OBチームの中で最も若い世代のクラブチームです。メンバーはほとんどが学生で、特に現在では、59回生以降の学生が中心となって活動を行っております。活動の場は藤沢市リーグで、今年度は2部で試合を行いました。その際、審判服代をOB会費から割いて頂きました。学生中心のクラブ故に、運営資金がままならず、OB会の方へ御願ひして頂いたのですが、大変有難く使わせて頂きました。また、今後のOB会の御活動等でお役に頂ければと考えております。貴重なOB会費を使わせて頂き誠にありがとうございます。

さて、リーグ戦の結果の方ですが、今年度は大変残念な結果となってしまいま



した。前半戦こそ2勝1敗とまずまずの滑り出しだったのですが、後半戦に入り、悲しいかな11人という人数がなかなか集らず、不戦敗を重ね、遂には失格。すなわち、その後の試合及び前半戦の2勝1敗という結果さえも公式の記録から消されてしまったのです。人数さえ足りていればどれも勝てた試合だっただけに残念でなりません。結局、来季は3部からの再スタートとなりました。お忙しいとは存じますが皆様の御協力をお願い申し上げます。

その他、湘南クラブは、筑波大附属定期戦、栄光学園OB戦、そして現役の練習相手としてなど数多くの活動をして参りましたが、是非とも、1月15日には現役に勝負を挑みたく考えておりますので、皆様の御協力をお願い申し上げます。

試合結果

藤沢市リーグ2部Aブロック

湘南クラブ 1-2 デュクル

3-0 一中クラブ

3-2 FCリオ

以後、2度の不戦敗で失格

3部へ自動降格

現役報告

'86 / '87 キャプテン

中 沢 正 紀

選手権大会県代表校、日大藤沢に敗れた悔しさを胸に秘め、新人戦へと立ち向かった僕らは、県大会四位と、あと一押しので敗れ、涙を飲みました。湘南の伝統を背負い、また輝やかしい諸先輩方の栄冠に少しでも追いつくべく、この涙を振り払って、全国大会出場へ向けて奮起し、チーム一丸となって取り組みました。この中で「湘南のサッカーとは？」と問われ続けてきたことが臆ろげにも見え始め、また静岡遠征においては、この「湘南のサッカー」が他のチームにはない、素晴らしく、作り上げられたものであると痛感しました。「腐っても鯛」と言われた現在の「湘南のサッカー」は腐っていないのだ、と示したく、先輩方の援助によるVTR等も活用して頑張りましたが、その甲斐もなく、全国への道は成りませんでした。しかし、この「湘南のサッカー」の中で、また絶え間ない先輩方の応援、援助の中で、サッカーをやったことを嬉しく思います。どうも有り難うございました。

試合結果

62年3月 静岡遠征(4勝2敗2分)

○ 2対0 静岡北

× 0対2 交野FC

× 1対2 国見

○ 3対1 日川

○ 1対0 御影

△ 0対0 静岡学園

△ 0対0 水戸商

○ 2対1 前橋育英

4月 筑波大附属定期戦 6対0

5月 総体県予選

1対2 県相模原

第31回浦高戦 1対1

7月 第12回強化研修大会

△ 1対1 八千代

○ 3対1 横浜商大

○ 1対0 四日市工

○ 1対0 岐阜工

× 0対2 甲府工

○ 2対1 浜松商

× 0対1 静岡西

× 1対4 久留米

8月 選手権1次予選

7対1 大師

4対0 藤沢工

5対1 弥生西

1対0 桜丘

市民大会

3対0 藤沢商業

1対0 藤嶺藤沢

準決 1対0 湘南台

決勝 0対1 相工大

準優勝

9月 選手権2次予選

0対3 日大藤沢

BEST16

11月/12月 新人戦地区大会

決勝トーナメント

5対1 北陵

準決 2対0 相工大

3対0 日大藤沢

3対1 藤沢西



★ 蹴球祭のお知らせ ★

日時：1月15日(祝) 10:30～16:30

場所：湘南高校

第1部 10:30～11:30 総会(大教室)

第2部 12:30～16:30 試合(グラウンド)

●当日は、11:00より、現役新人戦県大会の試合があります。対戦相手は、県立神田高校です。

●第2部の試合では、旧制中学OB・50代・40代の年代別紅白戦など色々楽しみたいと考えておりますので、お誘い合せの上多数ご参加下さい。予定は下記のとおりです。

① 12:30 kick off 超OB、旧制中学OBの試合

② 13:30 kick off 50代、40代紅白戦

③ 14:30 kick off 30代、20代紅白戦

④ 15:30 kick off OB最強チーム対現役

※更衣には中会議室を御使用下さい。

※シャワーは、第1体育館にあります。

●試合のあいだに、スタンドにて、豚汁をサービスする予定です。

◀旧制中学OBの皆様へのお知らせ▶

蹴球祭終了後、旧制中学OBの新年会を兼ね、昨年の名門中学大会の優勝祝賀会を行ないます。皆様の参加をお待ちします。

日時：1月15日(祝) 16:30～19:00

場所：“角若松”藤沢駅北口前(丸井裏)

会費：6,000円(予定……酒量による)

幹事：桑田 孝(22回) TEL 0467-22-5757

◀ お願い ▶

◆63年度会費納入の件

62年度は皆様のご協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

・社会人 5,000円

・学生 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、ご欠席の方は、お手数ですが同封の振替用紙にてお振り込み下さるようお願い申し上げます。

尚、下記銀行口座も従来通りでございますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金

口座番号 019166

湘南高校サッカー部OB会

安保隆文 TEL 0467-22-1794

62年度会計報告

(62.1.1～62.12.31)

< 収 入 >

OB会費(194名分+寄付)	952,680円
利子	1,071円
計	953,751円

< 支 出 >

61年度赤字補填	12,368円
現役寄付	400,000円
蹴球祭	89,700円
静岡遠征(OB2名分)	50,000円
定期戦(筑附、栄光)	48,205円
夏期OB会	68,415円
事務・通信費	84,490円
特別費(花輪代など)	62,800円
OB会報印刷・発送費	130,000円
計	945,978円

収支合計 + 7,773円

事務局だより

●駒崎さんをはじめ、多くの方々から原稿をいただき、去年より、2ページ増の会報6号を送付することが出来ました。皆様にお礼申し上げます。

OBのサッカーチームも、旧制中学大会優勝を果たすなど、その活動も充実しているようです。ボールを蹴りたい方は、各年代ごとにチームがありますから、ぜひ、幹事の方と連絡をとってみて下さい。

●電話での問合せ

安保(15回)	0467(22)	1794
相羽(41回)	045(88)	4824
藤塚(54回)	0466(34)	8139

●OB会員住所録・63年度改訂版を同封いたしました。これは現役部員が、先輩方への感謝を込めて作成したものです。誤字・訂正などありましたら御一報下さい。又、空欄になっていらっしゃる方の消息なども知らせただければ幸いです。